



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 教育環境適正化と小中学校統廃合のゆくえ

島田市は、これまで「豊かな心の育成」や「一人一人に焦点を当てた教育」を重視し、子どもたちの可能性や夢を育て、地域の教育力を生かした「市民総がかり」の教育を推進してまいりました。また、いくつかの自治会では、放課後の学習支援を行う寺子屋事業が実施されるなど、地域で子どもを育てるといふ機運も高まってきています。

一方で、他市町と同様、全国的な課題である人口減少と少子化の傾向は避けて通れず、学校教育にも影響を及ぼしつつあります。例えば、平成 29 年度の各学年の児童総数は、800 人台中盤から 900 人台前半となっていますが、昨年度の出生数は 600 人台となり、少子化の傾向は急激に進んでいます。中でも、北部 4 小学校区域内の総出生数は 18 人と、大変少なくなっています。

こうした状況から、平成 28 年度には「小学校及び中学校の在り方検討委員会」より提言をいただき、さらに平成 29 年度からは「教育環境適正化検討委員会」(以下、検討委員会)を設置して、有識者の皆さんに「子どもを最優先にした学校づくり」について議論を重ねていただきました。

現在、市内にある 18 の小学校と 7 つの市立中学校のうち、既に 3 つの小学校で複式学級(2 学年で担任 1 人)による授業を行っています。小規模校ならではの良さもありますが、児童生徒が多様な価値観に触れたり、好きな部活動に打ち込み切磋琢磨する交友関係を築いたりするには、学校が一定の規模で確保されていることが望ましいと考えます。検討委員会からは、「学校環境の再編は、特定地域だけでなく、市全体の課題である」「再編対象の地域には、政策的優遇措置を講じ、教育の先進地域

へと発展させる」など 7 つの基本的考え方、さらに、学校再編方針案として北部地区と初倉地区の具体的な再編案が示された提言をいただきました。

提言では、北部地域は「できるだけ早期に北中学校と第一中学校を統合し、その後、第一小学校の改修に合わせて北部 4 小学校を第一小学校に統合する」「第三小学校を学校改修時に中学校に転化した上で、第二小学校と第三小学校で一貫型の学区を形成する。



提言書を濱田教育長に提出する委員

なお、伊久美小学校は、特認校という特徴もあることから地域の声を考慮して判断する必要がある」との 2 つの案が示されました。

また、初倉地域は「湯日小学校を先行して初倉小学校に統合することが望ましいが、将来的には、初倉南小学校も初倉小学校と統合した上で、初倉中学校も含めた準一体型の小中一貫校とすることも検討すべき。なお、小学校 3 校を一つに再編する是非は、地域住民の意向を踏まえて慎重な議論を重ねていく必要がある」との案が示されました。

検討委員会からは、再編方針案をたたき台として、来年 8 月までに市の方針を出すよう求められています。しかし、市としては、既に 2 年半もの間、議論を重ねていますので、できれば来年 8 月を待たずに再編案をお示ししたいと考えております。今後も地元での説明会を開催してまいりますので、ぜひ多くの皆さんのご意見をお聞かせください。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

ボランティア団体「金谷ブレイル」では、広報しまだやちょうしんき、金谷コミュニティ広報誌「ほほえみ」、福祉だよりなどを点訳し、視覚障害者に提供しています。

メンバーは 6 人で、週 2 回の活動。仕事を持つ傍ら、活動日にはデータ入力や校正、印刷などを行っています。このたび、公益信託スクロール女性ボランティア基金より助成を受け、新しいパソコンを購入しました。このパソコンで、点訳ソフトを使って入力し、専用のプリンターで点字を打

ち出しています。

視覚に障害のある人々たちにとって、市や地域のニュースを知っていただく一助になれば、うれしいです。

(金谷ブレイル代表 清藤真理子さん)



広報しまだを毎月点訳しています